

### 2020年の新しい時代に向かって

平成から令和へと新しい時代を切り開く、菊陽町の担い手として、「豊かな心」と「確かな学力」を備えた生徒の育成を図っています。運動部活動では、サッカー部や男女バスケットボール部、女子バレーボール部の県大会出場の他に、合唱部の九州大会出場、神戸市で行われた「あじさいコンサート」の出演など多くの活躍がありました。

また、「社会を明るくする運動」作文では県知事賞、「熊本心」作文では最優秀賞をそれぞれ受賞するなど、素晴らしい成果を収めました。



2019NHK全国学校音楽コンクール熊本大会の様子

人権啓発標語 「どうしたの？ その一言で 救えます」

菊陽西小学校 6年 木村 莉久

### 部落差別をはじめあらゆる差別をなくす

## 第35回菊陽町人権子ども集会

第71回人権週間の期間中である12月7日(出)、菊陽中学校体育館において第35回菊陽町人権子ども集会が開催されました。昨年は「子どもの権利条約」を日本政府が批准して25年の節目の年でした。この条約には子どもたちに最善の利益を保障することが謳われ、子どもたちの意見表明権や集会の自由などを大切にすることなどが書かれています。本集会はまさにその条約の具体化といえます。

各中学校の生徒会や各小学校の代表者により、8月から3回の実行委員会が行われました。この集会は(1)いじめや差別をなくすために、身の回りのおかしさに気づき、行動する。(2)自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちを考えて行動する。(3)お互いを認め合い、本音が言い合える関係をつくることの3点を目的とし、子どもたちが考え、運営していく集会です。

ステージ発表を武蔵ヶ丘小・武蔵ヶ丘北小・菊陽西小・菊陽中学校が行いました。

武蔵ヶ丘小学校は「みんな友だち～みんななかま」と題し、運動会での日本語・中国語・英語の3カ国語放送、中国語クラブ、パンダの会、找朋友の活動を紹介し、言葉や肌の色、文化や風習がちがっても心を寄せ合いつながらることで誰でも安心して過ごせる学校にしていると発表しました。



「私たちが伝えたいこと」(武蔵ヶ丘北小)

ることの大切さ』『つながりあうことの大切さ』『当たり前前の環境の大切さ』を学んだことを伝えました。

菊陽西小学校は「ミナマタから学んだこと」を構成詩や歌にし



「ミナマタから学んだこと」(菊陽西小)

て発表しました。水俣病は遠い町の過去に起こった出来事だと思っていたことが、水俣病を正しく知るための学習や現地での語り部の人の差別や偏見に負けない生き方に会いそれは違うんだと気づいたことを発表しました。



「43項目の質問状」(菊陽中)

菊陽中学校は菊陽町の人権学習の共通教材である「43項目の質問状」のことについて劇で表現しました。実際にあった就職差別のこと、それをなくす取り組みを劇化し、差別

によって夢を叶えることが妨げられてはならない、自分のことだけでなく周りの人のことを考え行動していきたいと伝えました。

各学校の発表に対しては「外国にルーツを持つ人と仲良くなれる発表だった」「おかしいことにはおかしいと自分も言っていきたい」「まだ、終わっていないことを知った。クラスでもできることをしていきたい」、「自分の気持ちを伝える大切さ、みんながのりのままのことを伝えられる世の中にしていきたい」などたくさんの返がありました。

会場壁面では菊陽北小「平和新聞と水俣新聞」、菊陽中部小「人権標語」、菊陽南小「人権学習のまとめと感想」、武蔵ヶ丘中「武蔵ヶ丘中人権宣言・壁新聞」、保育園「生活画」の展示による発表が行われました。

閉会にあたり、実行委員長からの「真剣な発表には真剣に返していきたい。この集会は差別をなくすなかまを作る集会であり、この会場をで



たくさんの参加者

た後、この会場にいるみんなで、身の回りにある差別をなくすなかまになっていこう」との発言後、①いじめや差別を他人事ではなく自分のこととして考え、自分の行動をふりかえる②自分の思いを伝え、自分から差別をなくす行動をしていく③お互いのことを知り合いいじめや差別を許さないなかまをつくっていくことを集会の宣言として参加者(子ども約800人、大人約300人)で確認しました。

### 短歌会

### 菊陽句会報

### きくよう文芸

深呼吸肺腑に残る蜜柑の香	田島 三間	小春日や降灰まみれの玻璃戸拭く	木村 信子
うっすらと初冠雪の阿蘇の山	宮川ユキエ	失敗も齢重ねて師走かな	財津 早雪
訪ふ僧の挨拶先ずは庭紅葉	紫藤 祥子	黄葉積む朝の公園犬とじゃれ	原野レイ子
冬日差す火山灰に汚れし出窓かな	曾我 育代	寒菊や残りの時を慈しむ	高橋 孝子
菊盛る風が連れくる香りなる	曾我トモ子	鉢植菊雨にさらされ折れし枝	福田 貴子
数え日や食しい食の過去語る	緒方チエ子	年惜むこの一年を顧みて	寺尾千代子
老うこともすてきに老いて冬迎ゆ	米山るみ子	紅葉せる山に向ひて渡月橋	北川しんじ
町汚し火山灰降りしきる師走入り	吉田 幸子	冬雲の流れに噴きて阿蘇はるか	佐藤 澄世
上枝には未だ落ちざる秋楡の照葉の裏を空に映せり			
一棟に八百本のトマト植える今日は大玉明日は中玉			
霜枯れの畔に一茎タンポポは眩しいまでに光返しぬ			
寒空に眩いばかりの月明かり過ぎにし今日の思い深まる			
もうそこに冬の星座がまたたいてあしたに何か生まれ出す			